

平成27年度第1回奈良市子ども発達センター推進会議意見の概要	
開催日時	平成27年7月21日（火）午前10時から正午まで
開催場所	奈良市役所 北棟5第20会議室
意見等を求める内容等	・療育のあり方と発達支援に必要な関わりについて
参加者	出席者 6人 ・ 事務局 13人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	子ども未来部子育て相談課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
<p>1. 子ども発達センター療育相談室の事業報告</p> <p>（1）平成26年度の事業実績</p> <p>（2）平成27年度の取り組みについて</p> <p>「個別支援」「保護者支援」「支援者支援」「啓発」「連携」について報告を行った。</p> <p>2. 児童発達支援「いっぼ」の事業報告</p> <p>平成27年度の新たな取り組みとして「親子教室」「アフターフォロー教室」を実施。</p> <p>今年度は「乳幼児期の支援をするためには思春期以降の大人の様子や支援の在り方等を知るべき。先の育ちを見据えた育ちを支援が大切」をテーマに就労後についての研修に参加。</p> <p>3. 討議内容である「療育のあり方と発達支援に必要な関わりについて」課題①～③について出席者に意見等を求めた。</p> <p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>課題① 1・2歳児の親子通園のねらいと個別・集団療育の目指すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきの時期に親子の遊びやふれあいを通して発達を促していくことの必要性をどの機関においても知っておくことが大切である。</li> <li>・保護者への支援において、情報の整理と子どもの課題を共有するためにも低年齢児の支援は親子へのアプローチが大切である。</li> <li>・子どもの発達に悩みを持つ保護者同士のつながりも大切な時期である。</li> <li>・各機関で伝えることが違うと保護者が混乱してしまうので、個別療育と集団療育での一貫した取り組みが必要である。</li> </ul>	

課題② 3歳児以降の併行通園について

- ・大集団ではできない個別へのアプローチや、わからない時にわからないと発信できる力をつけていく場として小集団での併行通園は意味があり、それを保護者にも伝えていくことが大切である。
- ・地域の園以外の場で、子ども自身ができたという気持ちを積み上げていき自己肯定感を高める場にもなる。
- ・療育の質の充実は必要である。
- ・地域の園と併行通園の機関は子どもの情報を共有できることが望ましい。

課題③ 地域で暮らす親子を支援するための関係機関との連携のあり方について

- ・医療や福祉といった支援者が増えたからこそ、親子を支援している機関が連携し、方向性を共有する必要がある。
- ・個別の保育・教育支援計画を利用して地域や療育、保護者が支援の方向性等を共有していくことが大切である。支援計画を地域園で立てていくこととなることから、発達センターや教育相談課が連携しながらサポートしていくことが必要である。
- ・地域の医療機関（小児科医など）も発達支援の方針や流れを知り、保護者に情報提供できることが望ましい。
- ・療育だけでなく子どもの状況に応じた一般施策での支援の仕組みづくりも必要である。